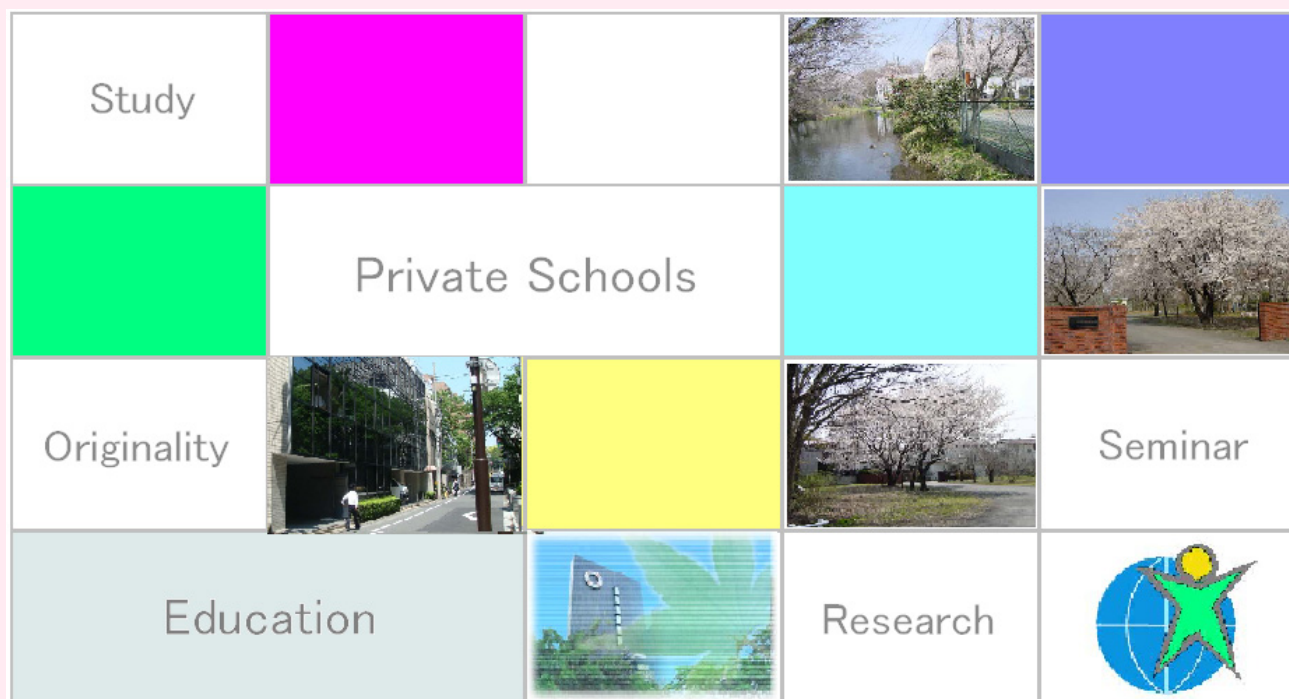


日本私学教育研究所 紀要 第50号

The Bulletin of the EIP SJ Vol.50 June/2014



2014-6

一般財団法人 日本私学教育研究所

The Education Institute for Private Schools in Japan

刊行のことば

中川武夫

日本私学教育研究所では専任研究員並びに全国から公募した委託研究員の先生方に1年間にわたって研究して頂いた成果をまとめ、毎年各学校にお届けしております。今年度も研究員の皆様のご努力により紀要が出来上がりました。この研究成果を全国の学校で共有し、ご活用頂きたいと願っております。

さて、日本の教育界は、教育史の専門家によると第三の波に晒されていると言われていています。第一の波は明治維新、押し寄せる西欧文明の中で植民地化に抗うため富国強兵を掲げ、国家神道の中軸とした教育制度が構築されました。第二の波は敗戦からの戦後復興、戦前の教育をすべて否定し、GHQ主導による戦後教育が展開されました。

この第一の波も、第二の波も時代背景は異なりますが短期促成、限られた時間の中で結果を求める教育、すなわち効率よく知識を詰め込むための教育が中心であったと思います。

そして日本の教育界は大局的に見ればこの詰め込み型教育により、大きな成果を上げ、鎖国から近代国家、焦土から経済大国へと突き進む原動力になったと思います。しかし、時代は下り、バブル崩壊や加熱する受験競争への懐疑、その反動からのゆとり教育等々、混乱の中で、日本の教育界は変革を目指してもがき続けながらも結局は過去の成功体験から抜け出せない状況が続いているような気がします。

第三の波は上記の混乱に加え、インターネットの発達によるIT社会への移行だと思えます。情報は質、量においても速さにおいても飛躍的に進化し続け、人も物もお金の流れも大きく変貌し、経済の世界には国境がなくなりました。

このような社会の中では未来予測がつきにくい、学習問題に例えれば、はじめから答えがない、複数の答えが存在する状態だと思えます。知識詰め込み型教育を受け、決められた一つの答えに安心する、常識や固定観念の中でのものを考える習慣のついた人々には生きにくい社会、その流れは止まるどころか加速する一方です。そんな時代を生きる生徒たちにどのような教育を提供するか、教育関係者に今大きな問題が突きつけられているのです。

この第三の波に象徴される時代、教育現場で様々な研究を重ね、新しい教育手法を提案された先生方の研究成果は大いに参考になると思います。ご活用くださるよう重ねてお願い申し上げて発刊の言葉とさせていただきます。

(一般財団法人 日本私学教育研究所所長)

日本私学教育研究所 紀要 第50号

目 次

- 1 学校評価の動向と私立学校の対応（Ⅱ）
山 路 進（一般財団法人日本私学教育研究所）……………1
- 2 外国語教育と私立学校
山 崎 吉 朗（一般財団法人日本私学教育研究所）……………5
- 3 新しい時代に対応した私立小学校の在り方
大 森 隆 實（一般財団法人日本私学教育研究所）……………9
- 4 高等学校公民科における科学哲学・科学技術倫理教育の展開
渡 辺 祥 介（札幌創成高等学校）……………13
- 5 探究学習の評価のあり方と効果を探る
森 田 寿（尚綱学院中学・高等学校）……………17
- 6 すべての学習活動に生きる言語技術教育
渡 部 久美子（聖ウルスラ学院英智小・中学校）……………21
- 7 生活習慣から見直す学習指導のあり方
釜 田 啓 市（清真学園中学・高等学校）……………25
- 8 生徒の非連続型テキスト・リテラシーを涵養する読解型の教材開発
荒 井 雅 子（立教新座中学・高等学校）……………29
- 9 生徒の自立心と協調性を育む寮生活の指導
羽 田 真（早稲田大学本庄高等学院）……………33
- 10 小学校・中学校における戦争体験・戦後体験についての聞き取り調査の研究
神 山 知 徳（昭和学院中学・高等学校）……………37

| | | |
|----|---|----|
| 11 | 地域文化と向き合う生徒育成のための取り組み 片山 健介（逗子開成中学・高等学校） | 41 |
| 12 | 多文化化する学校を形作る枠組みとしての「校則」に関する研究 松本 浩欣（相模女子大学高等部） | 45 |
| 13 | 21世紀における私学女子高校と教育思想 馬場 秀行（慶應義塾女子高等学校） | 49 |
| 14 | 高等学校における卒業論文に関わる指導方法の改善と 教員の指導力向上を目指した研究 竹林 和彦（渋谷教育学園渋谷中学・高等学校） | 53 |
| 15 | レゴを使った思考力入試の開発 高橋 一也（聖学院中学・高等学校） | 57 |
| 16 | 21世紀型情報教育の実践的研究 更科 幸一（自由学園中・高等科） | 61 |
| 17 | インターネットを活用したグローバル学習交流の展開 小林 昭文（聖徳学園中学・高等学校） | 65 |
| 18 | 教科横断型授業を通して生徒の考える力とコミュニケーション力を育てる 竹内 久代（エクセラン高等学校） | 69 |
| 19 | 三保半島から東海地震を追い、わが町の防災を考える 松下 哲郎（東海大学付属翔洋中学・高等学校） | 73 |
| 20 | 筋道を立てて自分の考えを発表できる生徒の育成 杉浦 俊光（星城中学校） | 77 |
| 21 | 数学の授業を通じて、生徒の「表現力」の育成 大参 智和（星城高等学校） | 81 |
| 22 | 科学理論の枠組みによる理科中・高一貫カリキュラムの分析と開発 久保田 英慈（愛知産業大学三河中学・高等学校） | 85 |

| | | |
|----|--|-----|
| 23 | アジア諸国における国境を超えた教材開発と授業交流の実施モデルの提案 沼田和也（同志社中学校） | 89 |
| 24 | 「救命講習」を伴う中高英語科授業のテキスト化 和氣依子（平安女学院中学・高等学校） | 93 |
| 25 | グローバル化社会における高大接続のありかた 八木誠（立命館宇治中学・高等学校） | 97 |
| 26 | 新しい学習指導要領における高校化学分野の内容の詳細化に対応した、 生徒の理解を深める有効な指導方法について 坂下淳一（同志社国際中学・高等学校） | 101 |
| 27 | 新学習指導要領を意識した学校図書館における教育の情報化の一考察 吉田拓也（樟蔭中学・高等学校） | 105 |
| 28 | 言語技術教育 谷村朋美（奈良育英中学・高等学校） | 109 |
| 29 | キャリア教育 田中英子（慶風高等学校） | 113 |
| 30 | 地域の諸問題解決のために貢献する生徒会活動 野村泰介（山陽女子中学・高等学校） | 117 |
| 31 | 心因性不登校および発達障害のある生徒の指導 上戸綾子（長崎玉成高等学校） | 121 |
| 32 | I T授業を活用した学力向上 石川美穂（興南中学・高等学校） | 125 |
| 33 | グローバル化に対応した私立中高一貫校におけるリーダー教育 森弘達（昭和薬科大学附属中学・高等学校） | 129 |

日本私学教育研究所 紀要 第50号
The Bulletin of the EIPSJ Vol.50 June/2014

平成26年 6 月27日 印刷

平成26年 6 月30日 発行

編集兼 一般財団法人 日本私学教育研究所
発行人 所長 中川 武夫

発行所 一般財団法人 日本私学教育研究所
東京都千代田区九段北4-3-8
市ヶ谷UNビル6階
〒102-0073 TEL 03-3222-1621

URL <http://www.shigaku.or.jp/>

印刷所 有限会社すずき印刷
東京都日野市日野本町3-11-4

ISSN 0285-7391

